

わたらせばし
渡良瀬橋
(夕陽のきれいな橋)

足利市の街並みを南北に分けて流れる市民の心のふるさと、渡良瀬川。現在この川には市内に12の橋がありますが、明治35年(1902年)に初めて木製のアーチ橋が架けられたのが、左岸の通四丁目と右岸の田中町を結ぶ渡良瀬橋です。



繊維の街、足利にとって、この橋の完成は交通の便を飛躍的に向上させ、繊維の流通にも一役かかってきました。

しかし、木橋だったため痛みが激しく、何度も修繕を重ねてきましたが、昭和9年(1934年)に現在の永久橋に架け替えられ、市民は「鉄橋ばし」と親しみを込めて呼びました。その姿は今も変わらず、繊維産業の盛衰など足利の歴史を静かに見つめ続けています。

老朽化の進むこの橋は、歌手の森高千里さんが「渡良瀬橋」を歌ってヒットしたことで一躍脚光を浴び、歌の中では、夕日のきれいなロマンチックな橋として描かれ「出逢い橋」として観光名所になっています。また、平成19年4月に歌碑が建立され、歌碑には「渡良瀬橋」の歌詞が彫り込まれていて、碑の前に立つとフルコーラスで「渡良瀬橋」が流れるようになっています。

■アクセス

JR足利駅から1.1km、徒歩15分
東武足利市駅から0.5km、徒歩8分

